

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.8

団子虫

手の平でコロコロ。つま先でツンツン。さあ、この生物は何でしょう？

(コロコロ、ツンツンは、擬態語・擬声語の一種です。少しわき道にそれますが、皆さんは「犬」の鳴き声をなんと表現しますか？多分、「ワンワン」ではないでしょうか。ところが、英語では、この「犬」の鳴き声を「バウワウ」といいます。

さて、そこで問題です！次の鳴き声は、何の動物の鳴き声でしょう？

①バーバー ②ヒス ③コツカドウドウドウー 正解は・・・①羊 ②蛇 えっ！
蛇って鳴くんですか？ちなみに、英語の「hiss」という動詞がこれにあたるそうです。この単語には「シーッと行って黙らせる。」という意味があります。その「シーツ」にあたる音だそうです。③鶏です。ほかにもたくさんあります。調べると面白いですよ。

おまけ 最近よく聞く「バズる」という言葉は、ある虫の羽音が語源です。さあ、何でしょう？そして、日本語は、擬態語・擬音語が豊かな言語です。あなたの身の回りにあるものを、あなたの語感で表現してみませんか？楽しいですよ。) 本題に戻りましょう。正解は、「ダンゴムシ」です。

さて、「ムシ」とありますが、「ダンゴムシ」は「虫」の仲間ではありません。では、「ダンゴムシは何の仲間でしょう？」正解は、エビ・カニの仲間です。その昔、海中にいた彼らは生き残りをかけ、陸に上がってきました。それが「ダンゴムシ」です。だから、湿ったところが好きなのです。(したがって、「ダンゴムシ」は、正確には「オカダンゴムシ」といいます。)

「ダンゴムシ」が、学校の1階、廊下辺りの壁際を歩いていると、ああ、梅雨が近いな、と私は思います。また、「ダンゴムシ」のオス・メスの区別は、背中、腹側の「斑点」を見るのが簡単です。「斑点」があるのが、「メス」です。(似たような生物に「ワラジムシ」がありますが、ワラジムシはつついても丸まりません。) さて、この幼い子供たちのアイドル「ダンゴムシ」ですが、大人の好感度はあまり高くなく、どちらかというと、「不快」な生物とされています。でも、この生物は、別名「掃除屋」と呼ばれるように、枯葉などを分解してくれる、働き者でもあるのです。また、この「ダンゴムシ」は、T字路では「ジグザグ」の歩行行動をとることも分かっています。この行動は、捕食者に再会しないようにする彼らなりの知恵なのです。



メス



オス

ところが、この慎重な彼らの中に、1割ほどの割合で、壁があれば壁をよじ登る、いわば「冒険者」が出現します。そして、**このような新しい視点に立ち、チャレンジする個体の出現が、その生物の進化を担い、絶滅を救うことにもつながるのです。**(このような行動は、「若者」に特有のものと言われています。それは、「脳」の発達が一律ではなく、このような衝動をつかさどる部分は、「思春期」に発達するからです。最近、何か新しいことに挑戦したい！と思っているそこの君！この「冒険者」と一緒かもしれません。そして、あなたの挑戦が、人類の未来を救うかもしれません。)

このように、小さな「ダンゴムシ」にも、なんとたくさんの不思議があることでしょう。ここで紹介した「ダンゴムシ」の行動について書かれた『ダンゴムシに心はあるか』(森山 徹)という本は3Aの学級文庫にあります。興味がある人は声をかけてください。